

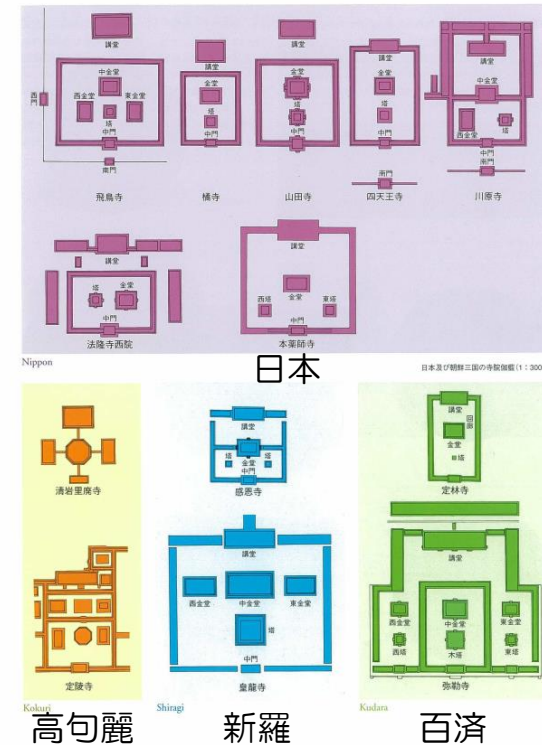
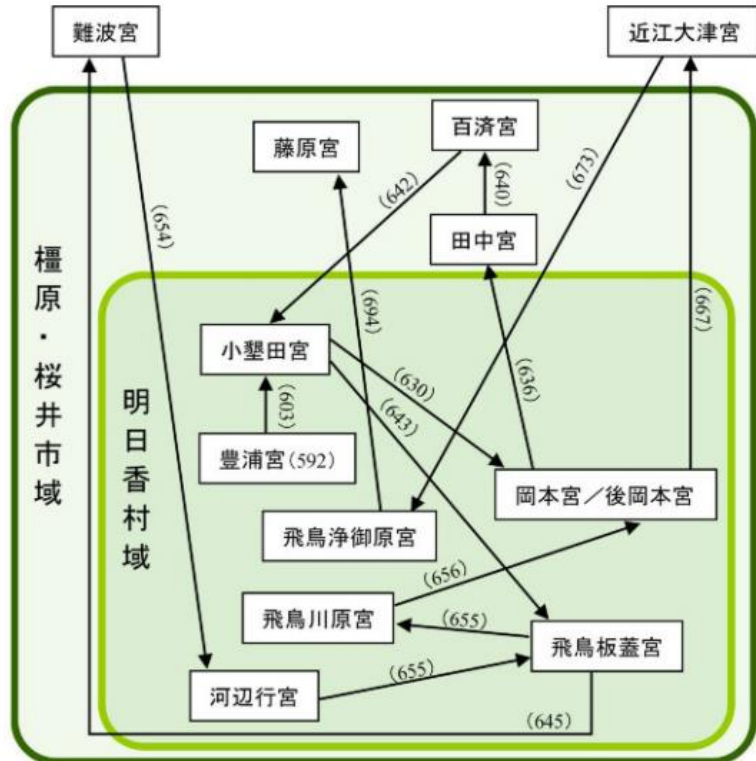
明日香村の歴史的風土について

古代国家の形成(宮殿の造営)と東アジアとの交流

飛鳥の地はかつて日本の首都として宮殿が置かれ、多くの寺院・古墳が築造された。
また、東アジアとの交流により知識・技術が取り入れられ、建造物の建築などに活かされた。

- 推古天皇が即位(592)し、持統天皇が藤原宮へ遷都(694)するまでの約100年間に、飛鳥の地は日本の首都として、各天皇が宮殿を置くほか、多くの寺院・古墳が築造された。
- 推古天皇の「豊浦宮」・「小墾田宮」、舒明天皇の「飛鳥岡本宮」、皇極天皇の「飛鳥板蓋宮」・「飛鳥河辺行宮」、齐明天皇の「後飛鳥岡本宮」、天武天皇の「飛鳥浄御原宮」等の宮殿があげられ、この地域の宮殿跡を「飛鳥京跡」と総称。

- 飛鳥地域において古代律令国家の形成過程で建設された諸寺院では、大陸からの知識・技術が取り入れられた。
- 東アジア・東南アジアの諸外国との交流の中で国家の体制を整えていったことは、建造物や古墳などの構築物にとどまらず、諸外国の人々を迎え入れた寺院や庭園から出土する遺物にも認められている。
- 諸外国の技術を受容した先進的文物を制作した工房等が存在したことも東アジア諸国との交流を示している。



日本及び朝鮮三国の寺院配置

出典：飛鳥・藤原京展：奈良文化財研究所

万葉集に詠われた特色ある歴史的風土

万葉集に詠われた地名のうち、飛鳥に関連するものが最も多いと言われており、これらの場所は現在も良好に保存され、特色ある歴史的風土を感じることができる。

- 『万葉集』に所出する地名延べ総数2,900のうち、大和地方に関連する地名は約900に及び、明日香村を含む高市郡に位置する地名(その一部に地名のついた単語を含む)は約150を数える。
- 飛鳥は、全国の万葉故地のなかで最も多くの地を残しているといわれている。
- これらの地名を残す場所の大半は、現在も明日香村および周辺地域における特色ある歴史的風土を感じることができる場として良好に保存されており、これら万葉集に詠われた特色ある歴史的風土は国民共有の財産となっている。

「明日香川 明日も渡らむ 石橋の 遠き心は 思ほえぬかも」
(巻 11-2701)



「橋の 島にし居れば 川遠み 曝さず縫ひし 吾が下衣」
(巻 7-1315)



万葉集に詠われた明日香村の特色ある歴史的風土

【石舞台古墳上空より明日香村全景(写真：明日香村)】

村内の主な文化財の分布状況

明日香村には、村全域にわたり、古墳時代後期から飛鳥時代を中心とした潜在的価値の高い歴史的文化的遺産が広範囲に分布。

※国指定史跡21件（うち国指定特別史跡3件）、国指定文化財21件、県指定文化財5件、村指定文化財7件 計54件
 国指定史跡の面積は合計50.6haとなり、これは村面積の約2%を占めている。



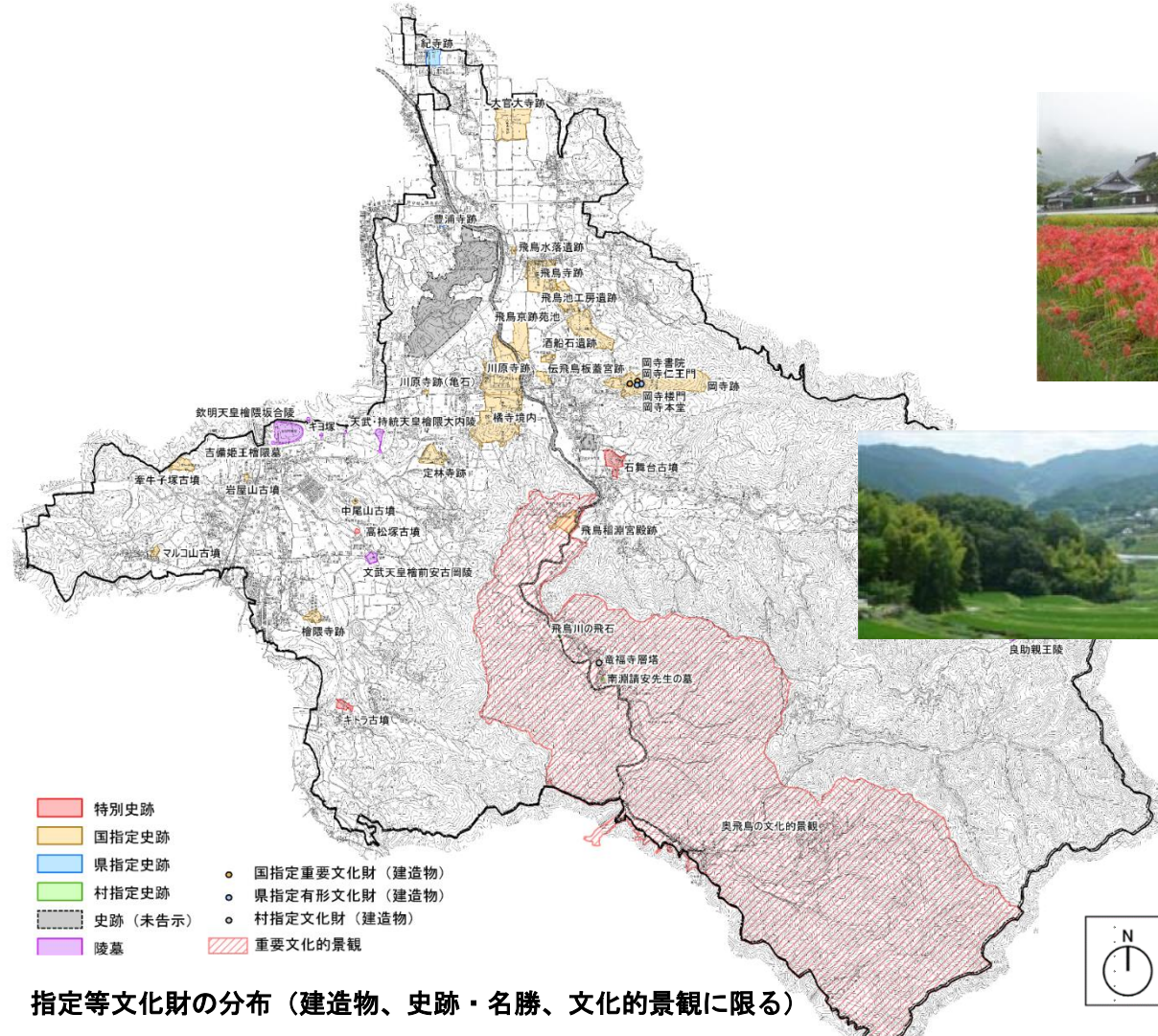
飛鳥水落遺跡(史跡)



飛鳥宮跡(史跡)



石舞台古墳(特別史跡)



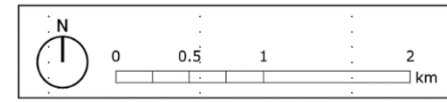
- 特別史跡
- 国指定史跡
- 県指定史跡
- 村指定史跡
- 史跡（未告示）
- 陵墓
- 重要文化的景観
- 国指定重要文化財（建造物）
- 県指定有形文化財（建造物）
- 村指定文化財（建造物）



橘寺境内(史跡)



奥飛鳥(重要文化的景観)



指定等文化財の分布（建造物、史跡・名勝、文化的景観に限る）

発掘調査の状況

明日香法制定後も新たな考古学上の発見が相次いでおり、古墳時代及び飛鳥時代を中心に、縄文・弥生、奈良・平安時代の遺跡も多数所在している。

遺跡の状況

	横穴墓	古墳	社寺	都城宮殿官衙	信仰遺跡	祭祀	生産遺跡	窯跡	墓・墓地	城・陣屋	集落・町屋	道路	遺物出土地	遺物散布地	その他	複合※	合計
箇所数 (箇所)	300	20	15	2	9	2	12	10	3	35	8	6	422				
面積 (ha)※	9.3	55.0	81.9	0.6	6.2	0.5	32.8	25.5	11.3	71.4	7.1	143.7	445.3				

明日香法制定以後の遺跡の発見状況



キトラ古墳壁画
(十二支像 寅)



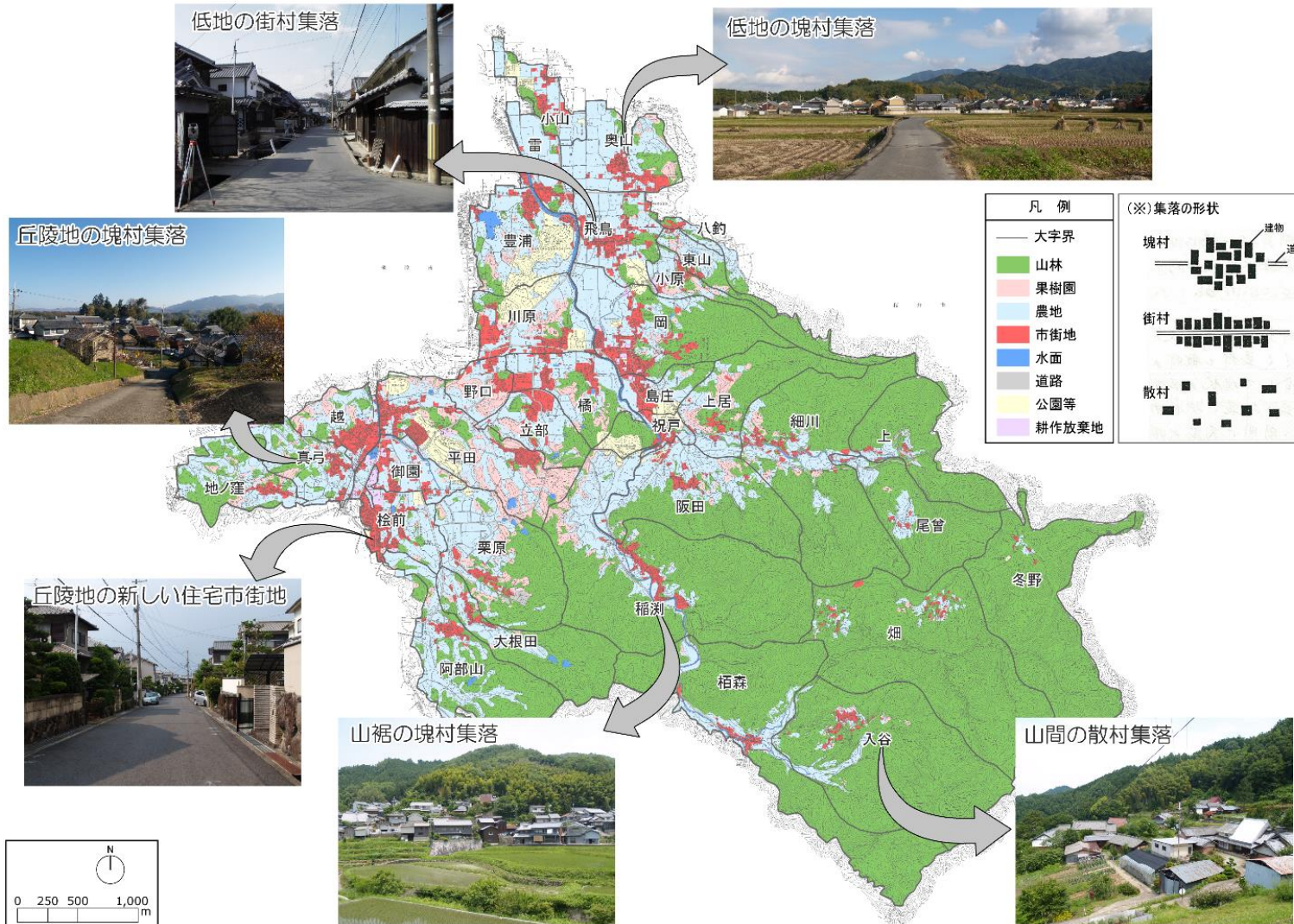
酒船石遺跡
(亀型石造物)



甘樫丘東麓遺跡

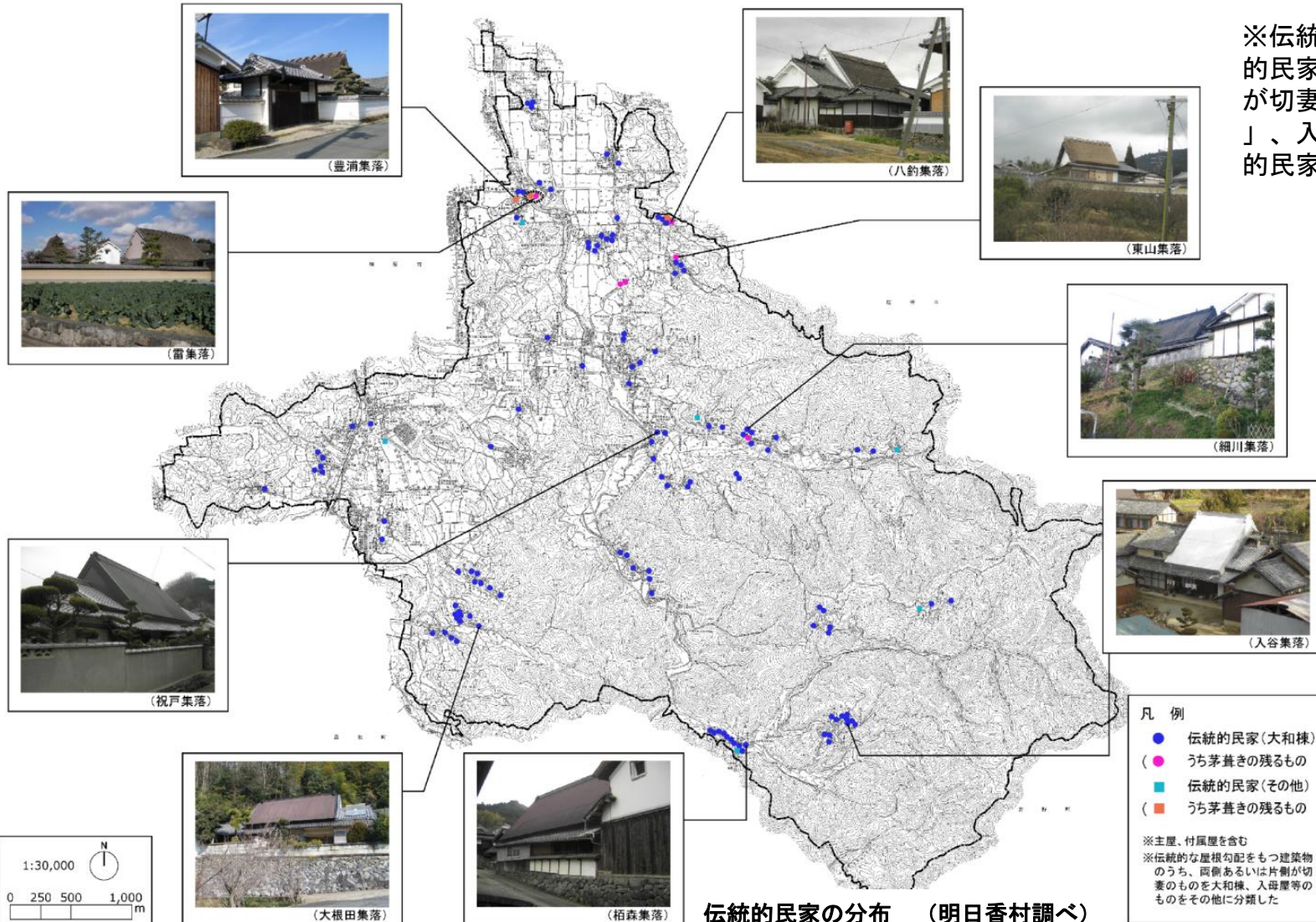
古代以外の歴史・文化資産について(集落形態)

- ・明日香村内の39の大字では、地形的特徴や歴史文化的な背景等を反映した土地利用がなされ、個性豊かな集落景観が形成されている。
- ・各集落において、和瓦の屋根並みなどの伝統的な様式を踏襲した家並みが形成され、漆喰や板張りによる仕上げの外壁や越屋根や煙出し、虫籠窓や格子窓などの伝統的意匠をもつ建物も多くみられる。



古代以外の歴史・文化資産について(伝統的な民家)

村内には、江戸～明治期に建てられた、奈良県を代表する特徴的な伝統的民家の形態である大和棟（高塀造り）民家が数多く残されており、大和棟の伝統的民家が125件（茅葺き6件、トタン葺き等119件）、その他の伝統的民家は9件（茅葺き3件、トタン葺き等6件）が確認されている。

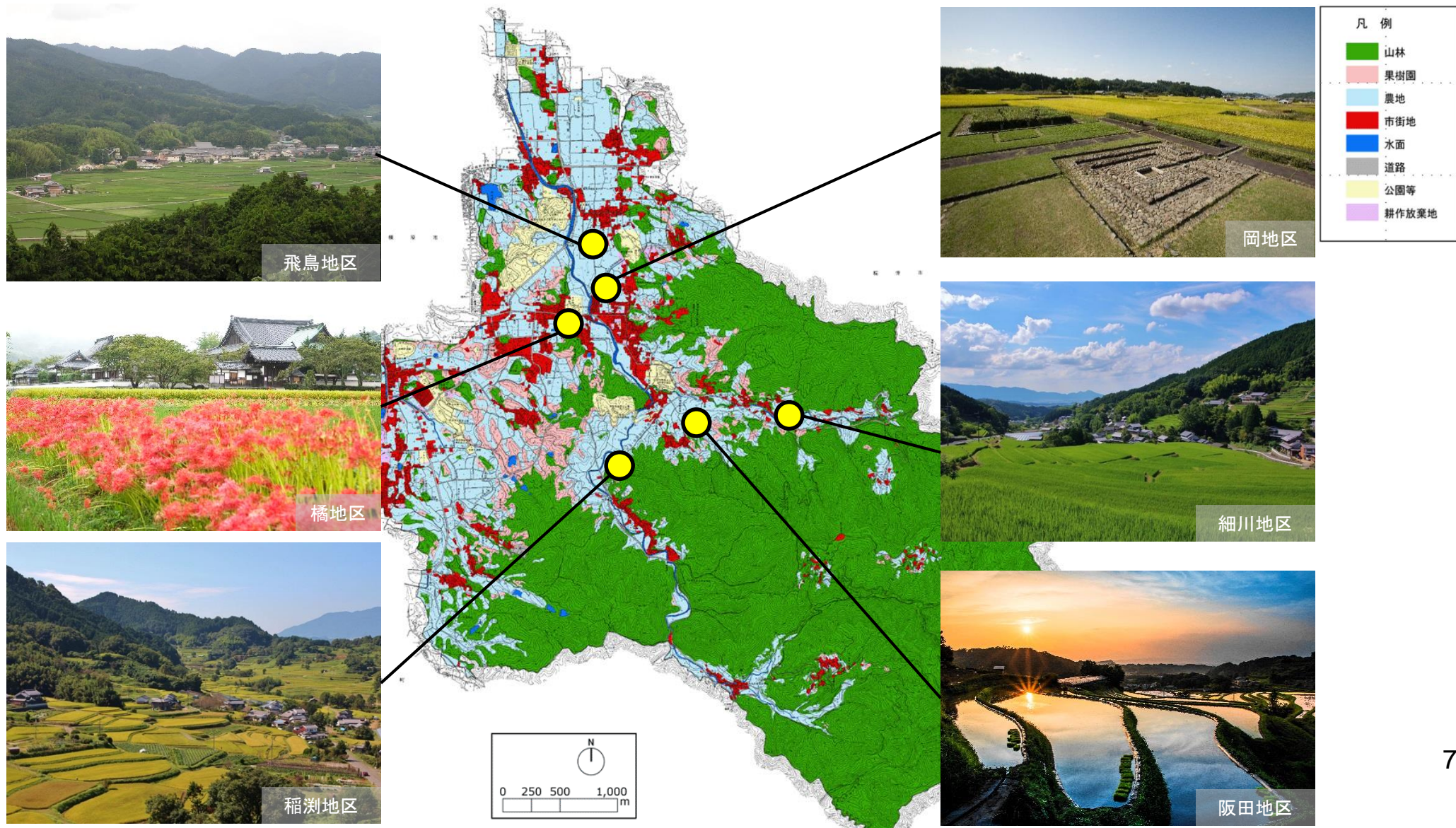


※伝統的な屋根勾配をもつ民家を伝統的民家とし、ここでは、両側又は片側が切妻のものを「大和棟の伝統的民家」、入母屋等のものを「その他の伝統的民家」として整理している。

伝統的民家の分布 (明日香村調べ)

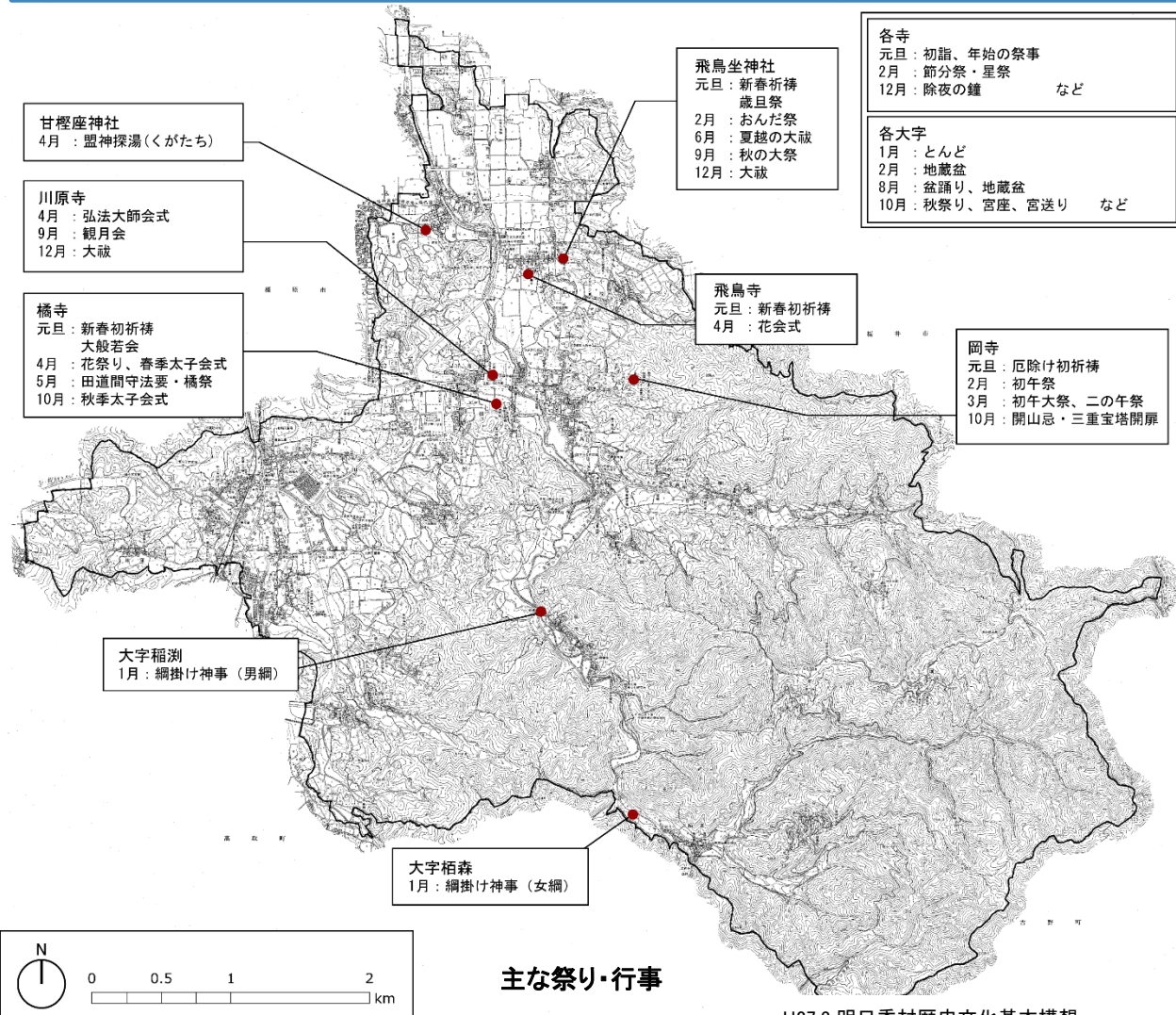
古代以外の歴史・文化資産について(農村景観)

明日香村では、現在も数多くの遺跡群の上に田畑が広がり、自然に根ざした農や山の生活文化が息づいている。この文化的資産と農業景観が共存することによって、特徴的な風景が形成されている。



古代以外の歴史・文化資産について(祭礼行事・伝統芸能)

- ・明日香村内では、五穀豊穡等の農耕にまつわる神事や子孫繁栄等の行事が年間を通じて行われ、各大字等で引き継がれている。
- ・また、古来より受け継がれてきた伝統的な芸能があり、明日香村伝承芸能保存会では、これらの活動を広く発信し、年間6回程度、見学・体験会を開催して復元・継承に取り組んでいる。



<祭礼行事>



<伝統芸能>

